

常陸川水門(逆水門)の3つの役割について現地説明会を実施！ ～自治体等の防災担当者の水防災意識が向上！～

霞ヶ浦(西浦、北浦等)の出口にある常陸利根川の利根川との合流点に設置されている常陸川水門について、霞ヶ浦流域大規模氾濫に関する減災対策協議会の自治体等関係機関の防災担当者を対象とした治水、利水上の役割、操作状況などに関する現地説明会を開催しました。

霞ヶ浦流域住民と直接対応されている、防災担当者の方々に常陸川水門とこの操作が密接に関係する霞ヶ浦の洪水特性等の理解を深めて頂くことで、**水防災意識社会の再構築に向けた課題と取組に関して、さらなる情報の共有と意識の向上が図られた。**

常陸川水門(逆水門)の現地説明会

～常陸川水門の役割、操作状況に関する説明～

実施日：平成28年11月11日(金)

場 所：常陸川水門(茨城県神栖市太田3109)

出席者：霞ヶ浦流域大規模氾濫に関する減災対策協議会の自治体等
関係機関の担当者40名参加

その他：マスコミ取材1社



常陸川水門の3つの役割と操作状況について説明

【3つの役割】

- ①利根川の洪水が霞ヶ浦に逆流することを防ぎます。
- ②塩分の遡上を防ぎます。
- ③霞ヶ浦の水利用の容量を確保します。

<参加者の主なコメント>

- ・霞ヶ浦が洪水時であっても、利根川の水位が高い時には常陸川水門から放流できない仕組みがわかった。
- ・霞ヶ浦の水位が下がりにくく、洪水時に高水位の状態が長く続く理由がわかった。
- ・霞ヶ浦ならではの洪水の特性を知ることができ、水防体制の検討、避難の検討等に有意義な情報を得ることができた。